実践団体情報

記入日	2020 年 1 月 6 日（２０１９年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
代表者名	中川　雅司
プラン全体のタイトル	標津高校防災啓発プロジェクト
電話番号	0153-82-2364
メールアドレス	n-shibetsu-z0@hokkaido-c.ed.jp
実践団体の説明	避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）をきっかけに生徒会が主体となり防災活動を推進し、避難所運営のシミュレーションやオリジナルＨＵＧ作りを行い、地域や他校生徒会へ防災活動を広げ、高校生が防災リーダーとなり様々な防災減災活動へチャレンジしていく団体である。
所属メンバー	標津高校生徒会総務部生徒 生徒会担当教諭
活動地域	北海道　根室管内　標津町
活動開始時期・結成時期	2017 年 3 月～
過去の活動履歴・受賞歴	2017 年度アクサユネスコ減災防災プログラム採択 2018 年度アクサユネスコ減災防災プログラム採択

プラン全体の概要	本団体は、標津町内唯一の高等学校であり、生徒会活動に防災減災教育を取り入れた実践を行っている。町役場との協力関係を築き、防災の取り組みから生徒を成長させると共に町や近隣高校へ防災の取り組みを広げている。特にＨＵＧを柱に活動を広げ、地域住民やＰＴＡ、教職員、他校生徒会生徒とのＨＵＧを実施。さらに標津町オリジナルのＨＵＧを作成し、地域住民へ防災活動を還元する活動を行っている。また、避難所となる本校を舞台に高校生が主体的に避難所を運営できるようなシミュレーションを重ね、常に災害に対応できるよう高校生防災リーダーとしての意識を高めている。防災講話を町役場との協働で企画し、地域の避難所となる本校を舞台に実施し、地域住民との交流を行った。また、被災地でのボランティア活動や防

	災研修を実施し、その成果を全校生徒や教職員へ還元し、防災意識を高める活動を実施している。少子高齢化が進む地域で災害時の担い手として高校生が町役場との連携を図り、より地域へ貢献できる防災活動を実践している。

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	・町担当との連絡調整 ・防災研修案提案 ・オリジナルＨＵＧ作り	・町役場への避難所プレゼンテーションの準備	4/ 19 町プレ（標津町役場）
５月	・学校祭打ち合わせ	・防災研修に関する手配	4/ 29～5 震災ボランティア
６月	・展示物・防災講話・総合防災訓練うち合わせ	・学校祭展示物作成	
７月	・研修先との連絡調整 ・語り部との連携	物品受け入れ等準備 展示準備片付け	7/13 学校祭防災展示 29～8/1 防災研修（奥尻島）
８月			
９月		・奥尻報告資料作成	
10 月	避難訓練及び防災講話の打ち合わせ（町役場）	・報告会用ＰＰＴを作成 ・防災講話の検討	10/11 ボラ・奥尻研修報告 10/18 防災講話
11 月	REAL HUG 実施計画打ち合わせ（生徒会）	・REAL HUG 役割を再確認 ・部活動への参加依頼	11/28　REAL HUG 事前準備
12 月		・オリジナルＨＵＧ作り	12/26 REAL HUG
１月			
２月			2/15 CP 報告会
３月			

プラン全体の反省点・課題・感想	・町役場の協力が活動をスムーズに進める上で重要であった。オリジナルＨＵＧでは、標津町らしい災害設定に苦慮した。防災講話やＨＵＧ作りを行うことで地域と共に防災活動を行う重要さに気付いた。高校生の防災リーダー意識の向上が一部生徒にとどまった事が今後の課題である。
今後の活動予定	・オリジナルＨＵＧを地域住民と行い、本校の避難所機能を周知する活動を推進する。避難所設営を高校生が率先して行えるような活動を継続する。町役場との連携を深め、地域の幼少中学校へ防災活動を広め、防災リーダー育成の拠点として防災減災に関する活動を継続する。

実践したプランの内容と成果

記入日	2019 年 12 月 25 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	①
タイトル	標津高校防災啓発プロジェクト ～避難所機能プレゼンテーション（町プレ）～
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	1 ヶ月
実践活動を実施した日時	（準備）2019 年 1 月～ （実施）2019 年 4 月 19 日
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	１５人
防災教育の対象者の属性	町役場職員
防災教育の対象者の人数	約４０人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道標津町
実践を行った具体的な場所	標津町役場
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	町役場職員への周知や町長との予定調整のための人物 パワーポイント　プレゼンテーション能力

達成目標	標津高校の避難所としての機能を町へ周知し、今不足している物品や備えてほしい物品等をプレゼンし、避難所機能を広く町役場職員へ伝える。また、高校生の防災減災の取り組みを説明する。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">（１）事前に学校の非常時における機能を学習する。
－生徒会生徒が学校の中から災害時に使える物品や体育館での避難者の受け入れのシミュレーションを行う。
－体育館の非常用電源の確認（教職員）
（２）避難所機能を町へプレゼンするための準備
－（１）の結果を元に町役場へプレゼンするための機会を確保、町職員への案内と町長参加に向けての連絡調整（町役場）を行う。

（３）避難所機能プレゼンテーション実施
－町役場職員約４０名を前にプレゼンを実施。</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">高校生が町役場にて町長、役場職員へ向けてプレゼンを行い、その行動を他者に認められたことにより、自己有用感を高め、町との連携を深めた防災活動への意識が向上した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">生徒たちに「なぜ防災に取り組むのか」という原点を教員側で意識して生徒へ指導する必要がある。また、学校の非常設備について教員が知る必要があるため、教職員の研修会も必要である。生徒は、この活動を通して生徒会活動に自信を持って取り組み、防災に向けた取り組みの楽しさを感じ取ったようである。</td></tr>
<tr><td colspan="3">★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</td></tr>
<tr><td>関係者の名前・団体名</td><td colspan="2">標津町役場　危機管理室</td></tr>
</table>

記入日	2019 年 12 月 25 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	②
タイトル	学校祭防災展示
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	０円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 7 月 14 日
実践の所要時間	3 時間
実践の運営側で動いた人の人数	１５人
防災教育の対象者の属性	地域住民・全ての人々
防災教育の対象者の人数	約５０００人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道標津町
実践を行った具体的な場所	北海道標津高等学校　HR 教室
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	特になし

達成目標	地域へ開かれた学校作りの一環として、地域の避難所としての本校の役割を PR すること。また、生徒の防災減災に関わる活動の周知を図るため。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">（１）事前準備
－町役場危機管理室と展示内容についてうち合わせ。
－物品搬入時間方法についてうち合わせ。
（２）展示物搬入
－学校祭前日に教室を確保し、展示物品を搬入する。
－展示物のレイアウトを考え、配置する。
（３）展示（当日）
－受付を設置し、来場者を把握。
－内容について解説する担当生徒を配置。
－段ボールベッドの体験、非常食の体験を実施。
 </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">地域住民へ学校での防災減災の取り組みを PR することができ、避難所としての本校を意識してもらうことが出来た。また、段ボールベッドや防災マップ等を展示することで町役場からの防災の取り組みを周知することが出来た。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">町と学校が防災の取り組みで協働していることを意識した展示にするべき。今回の展示では、それぞれの活動を展示したというところもあった。防災グッズの体験は来校者にも講評であった。町の備蓄品の紹介を充実させても良いのではと感じた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</td></tr>
<tr><td>関係者の名前・団体名</td><td colspan="2">災害支援くしろネットワーク</td></tr>
<tr><td>関係者の説明</td><td colspan="2">釧路市の民間団体で被災地支援ボランティアを実践している団体</td></tr>
</table>

記入日	2019 年 12 月 25 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	③
タイトル	ひとにつなげる防災の活動 ～震災ボランティア報告・防災研修・防災講話～
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	(被災地ボランティア)2019 年 4 月 27 日～5 月 1 日 (防災研修)2019 年 7 月 29 日～8 月 1 日 (報告会)2019 年 10 月 11 日 14 時 30 分～15 時 20 分 (防災講話)2019 年 10 月 18 日 11 時 00 分～12 時 45 分
実践の所要時間	10 日間
実践の運営側で動いた人の人数	２０人
防災教育の対象者の属性	高校生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・
防災教育の対象者の人数	約２００人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道標津町
実践を行った具体的な場所	北海道標津高等学校　体育館

達成目標	高校生が自分で見て感じたことを表現し、他者へ伝えることで被災地へ貢献しようとする態度を育成する。また、実際に大震災を体験した方からの講話を頂くことで、災害への備えを広く地域住民へ伝えることを目的とする。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	（１）被災地のボランティア活動参加 －釧路市の団体に参加する事で生徒を福島県の被災地へ派遣。生活支援等のボラティア活動を行う。原発避難者からの体験談を聞く。 －校内の避難訓練に合わせて、全校生徒へ向けた報告会を実施。 （２）防災研修 －北海道で津波被害を受けた奥尻島へ防災の観点での研修を行う。 －津波被害から復興までの道のりを語り部から話を伺う。 －避難所での様子、地域防災で大切なことを学ぶ。 －校内の避難訓練に合わせて、全校生徒へ向けた報告会を実施。 （３）防災講話 －町役場に協力依頼し、講師の選定を行う。 －町の総合防災訓練との共催という形で講師を招聘する。 －地域住民の受け入れに関して町役場との連携を図る。 －当日の運営に生徒会生徒を起用する。 －講師と生徒でのディスカッションを行うための事前うち合わせを行う。 －当日のファシリテーター役との進行うち合わせを行う。

得られた成果	貴重な体験を地域住民と共に学ぶ事ができ、津波被害の深刻さについて改めて実感した。行政に頼りすぎないような住民自ら防災意識を高めることの大切さを伝えることが出来た。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	防災研修への費用補助が出来ないか。全額負担では、生徒の経済的負担が大きい。講師選定において町の協力が必須であった。人的な交流をもつ町役場が講師との橋渡し役として機能した。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町役場　危機管理室
関係者の名前・団体名	災害支援くしろネットワーク
関係者の説明	釧路市の民間団体で被災地支援ボランティアを実践している団体
関係者の名前・団体名	奥尻高等学校

記入日	2020 年 1 月 6 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	④
タイトル	ＲＥＡＬ　ＨＵＧ ～高校生が避難所を設置してみたらどうなるの～
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	3 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	2019 年 12 月 26 日 9 時 00 分～12 月 26 日 17 時 00 分
実践の所要時間	8 時間
実践の運営側で動いた人の人数	13 人
防災教育の対象者の属性	高校生・教職員等
防災教育の対象者の人数	約５０人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道標津町
実践を行った具体的な場所	北海道標津高等学校　校内・体育館・格技場

達成目標	生徒による避難所の開設から避難者の誘導が出来るのか、また想定していた避難所開設について部活動の生徒で対応できるのか確認すること。教職員は、避難所運営するにあたり非常用設備の取り扱いを習得する。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	（１）REAL　HUG のための事前うち合わせ －生徒会総務部生徒による避難所のシミュレーションを行い、学校内の物品や機能を再確認する。 －部活動へ参加協力の依頼を行う。 －非常用電源装置の使用許可を確認（管理職・事務） （２）実践内容（当日） －生徒会生徒うち合わせ －体育館にて参加有志部活動および生徒会のうち合わせ －生徒会生徒から部活動生へ体育館の設営を指示、生徒玄関へ本部を作成・受付準備、教職員により非常用電源始動・切り替え、シャワー室確認 －オリジナル HUG カードより数枚を選び、避難者を想定した誘導訓練、携帯電話充電スペースの設置と電源負荷確認 －段ボールベッド作成訓練 －振り返り、アンケート実施
得られた成果	生徒会生徒が REAL HUG を自ら企画・実行できた事で高校生防災リーダーとしての意識が向上し、コミュニケーション能力が向上した。教職員に対して、非常用電源の操作確認などの校内防災機器の点検の場となり、防災意識の向上へ繋がった。また、報道機関による取材、メディアへの発信により本校の避難所機能の PR に繋がった。さらに、町役場危機管理室との連携により町指定の避難所機能の共有が図られた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	任意の参加としたが部活動の協力を得て実施することが出来た。防災教育の一環として教職員の職員研修の場としても適している。準備にあたり関係機関との連絡調整を綿密に行うことが大切である。可能であれば、近隣住民の参加があるとさらに効果的である。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町役場　危機管理室

記入日	2020 年 1 月 6 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	⑤
タイトル	オリジナル HUG 作り ～標津町の融雪洪水を想定する～
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	3 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 ヶ月程度
実践活動を実施した日時	2019 年 4 月～2020 年 1 月
実践の所要時間	作成まで 2 時間×3 ヶ月（実践は次年度に予定）
実践の運営側で動いた人の人数	８人
防災教育の対象者の属性	保護者/PTA・地域住民
防災教育の対象者の人数	未定
実践を行った都道府県と市区町村	北海道標津町
実践を行った具体的な場所	北海道標津高等学校

達成目標	オリジナル HUG 作りを通して地域の災害について学び、高校生の地域防災への意識を高める。地域へ還元することにより開かれた学校作りと地域住民の防災意識の向上を高めることを目的とする。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">（１）標津町オリジナル HUG 作りのための検討会議
－町役場危機管理室と作成に向けてのうち合わせを実施。
－道東で起こる可能性のある自然災害について学ぶ
（２）HUG の普及
－DoHUG を使い近隣他校生徒会と PTA との HUG を実施。
－運営役としての HUG のスキルを高める

－DoHUG から本地域へ応用できる内容の検討を行う。
（３）オリジナル HUG カード
－DoHUG を用いてカード内容の検討（静岡版 HUG も参照）
－カードデザインを決める。Excel にて作成
－住民カードの住民を標津町に由来する人物設定とする。
－イベントカード、情報提供カードを 3 日間の避難所運営にあわせて作成する。
－実際に印刷し、生徒同士で実施、再検討する。
 </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">オリジナル HUG を作ることで地域に迫る災害への興味関心を高める事が出来た。地域住民の家族状況や世帯構成を把握することで、災害時の本町の課題を考えるきっかけとなった。HUG を通して、リーダー意識が高まり、様々なことに対して率先して行動に移すことが出来る生徒が増加した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
</table>

課題・苦労・工夫	標津町での災害として風雪害を想定したが、住民向けの避難所を設営することにはならないため、それ以外の災害を想定することが難しかった。町役場との協力のおかげで春季の融雪洪水を設定することが出来た。設定した災害に対して、何枚のカードでどれくらいの日数を想定するか、カードのデザイン方法、わかりやすい表現を使うことに生徒達は苦労していた。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町役場　危機管理室